

平成31年（令和元年）度 大田区立馬込第二小学校 学校経営方針ならびに経営計画

校長 雨笠 常宣

◎ 教育目標

◎心豊かで思いやりのある子

自他の思いを考えられる子どもに。

自分に自信がもてる子どもに。

・よく考え工夫する子

知識だけの学力向上だけでなく、資質・能力を育てる。

「なぜ」、「どうして」を考える子どもに。

感覚を磨き、表現する手立てをもてる子どもに。

・健康でたくましい子

体力テストの結果を児童自らが感じ、

自己の体力を高めようとする子どもに。

◎ 今年度すすめる学習計画

- ・平成32年度本格実施、新学習指導要領をベースに授業展開を。

国語、社会、算数、理科・・・一部移行措置で実施。

体育、音楽、図画工作、家庭、道徳(特別の教科道徳)、総合、

外国語(新設)、外国語活動、特別活動・・・全面实施

第三・四学は外国語活動として35時間の授業を展開

第五・六学年に外国語(教科)として

これまでの聞く・話すに加え、読む・書くの学習 70時間

- ・算数習熟度別学習を低学年から実施します。(二学級3展開)
- ・習熟度別学習のグループ数をさらに一つ増やす学年を設けます。
今年度は、4年で実施。(区教委設定)
- ・体力の向上をさらに求め、年間を通してマラソンを実施し、
心身の体力の向上にもつなげてまいります。・・・等

◎ 昨年度の研究（大田区教育研究推進校（算数））の深化を

- ・今まで学習してきたことを生かした授業展開を再確認。
習熟度別学習をベースに各自が学年に応じた手立てをもち解決方法を習得させていく。
- ・学習スタンダードの確立
学年ごとに系統性をもった学習姿勢を身に付けさせる。

令和2年（平成32年）本格実施する学習指導要領を踏まえた、授業改善、計画をすすめていく。

◎ 生き生きとした学校

- ・教職員・・チーム馬込第二小。
これまで以上に自身の立場を見直す。
特別支援教育の深化。 後ほど詳しく。
- ・児童・・学校生活が楽しい。
子どもとの語りや一緒に遊ぶ（児童理解の徹底）
- ・保護者・・我が子が元気に学校に行く。
担任との忌憚のない会話を。
- ・地域・・学校教育に協力したいと思う。
地域の人材を有効に活用する。

◎ 学習指導

学力の向上、特に基礎、基本の徹底とともに、活用する能力の向上にも努める。

国語・算数は、他の教科の基礎ともなる。

- ・ICT機器の活用とプログラミング教育
すでに学習した内容を踏まえた学習指導も含めて
- ・習熟度別指導（算数）
1年生から習熟度別（一学期はTTによる）指導を実施
少人数によるグループ指導
習熟度グループを一つ増やし、10人以下での指導ができるように
希望制による指導を原則として児童一人一人の実態に則して担任、学年、少人数担当が協議し、児童に確認をして適切な指導をする。
- ・スパイラル的な指導
言語活動（言葉、漢字、計算）は繰り返しの学習が必要
(教育活動全体を通して指導をすすめる)
- ・東京ベーシックドリルの活用
卒業までに全員が4年生までの学力を付ける。
1～3年生は、当該学年の診断テストの7割の習熟を80%身に付けさせる。
目標達成のために、確認シートをもとに土曜日の補習や夏季休業中

- に必要な応じて各児童に課題として提供していく。
- ・学習カルテを用いた保護者への理解（児童の実態）

◎ 生活指導

学校生活は、集団生活が基本。

様々な考えをもつ友達とどのように接していくか、各学年の発達段階を踏まえた指導をする。

- ・生活スタンダードの確立
あいさつ励行、思いやり、感謝、奉仕
早寝・早起き・朝ごはんの徹底
忘れ物“0”を目標
- ・安心、安全の徹底
怪我や事故に対して、教職員が危機意識をしっかりと持ち、児童が安全に過ごせるように努める。
PTAの方々や地域の方との連携を密にして、地域での安全にも啓発をしていく。（最近では、春の交通安全運動）

児童一人一人に対しても「自分の身は自分で守る」を念頭に交通安全、防犯、防災の指導を心がける。（自転車事故の多発）

各家庭においても自身の子供だけでなく、身近にいる子に対しても我が子同様に見守るように啓発をする。

- ・SNS学校ルール
携帯電話やスマートフォン等の使用について、学校では、特に高学年の児童とともにルールを考え、策定する。
各家庭においてもSNS家庭ルールをぜひ、決めていただきたい。
- ・学校緊急メール配信システムの活用
地域でのセキュリティー強化、学校からの緊急連絡等を配信。
そのための登録を促す。

◎ （仮称）おおた教育ビジョン素案

急速に変化し続ける未来社会を見据えて教育施策を推進する基本的な考え
四つのビジョンと六つの重点的にすすめるプラン

「子どもたちの豊かな人間性と未来を作る力をはぐくむ」

- ・学力向上
スパイラル的な学習指導（どの教科でもできる）
（既習事項の確認（レディネステスト等）

- ・豊かな心を育む
思いやる心、敬う心を育てる。
- ・体力向上
年に二回の体力テストを実施
自分の弱いところを認識させる。
毎週のマラソン、体(耐)力の向上にもつなげていく。
- ・教育環境向上(学習・学校生活)
担任・専科もとより巡回指導教員(専門員)、非常勤講師、
学習指導講師、学校特別支援員、スクールカウンセラー、
用務主事、事務職員外部委託企業等、全教職員で。
- ・家庭・地域の教育力向上
学校での児童の実態を知らせる。
学習カルテ、個人面談、日頃の単元末テストの結果
地域教育連絡協議会、夏季わくわくスクール
- ・地域力育成
読書の推進
こまクラブの活用
東京オリンピック・パラリンピックの教育
地域のスポーツ団体の活用
環境美化の推進
美化委員会による近隣公園の
花壇の手入れ
- ・令和の時代を生きる
主体的・対話的で深い学び
自主性を高める
コミュニケーション能力の向上



ミライトワ



ソメイティ

- ◎ 特別支援学級への理解
 - ・特別支援教育の推進
東京都特別支援教育推進計画
共生社会の実現に向け、障害のある児童の自立を目指し、一人一人の能力を最大限に伸ばして、社会に参加・貢献できる人間を育成
 - ・各学年・学級での理解、啓発(含む保護者)
- ◎ 特別支援教室への理解
(令和2年(平成32年)度 中学校でも全校実施)
 - ・個別に指導を要する児童に対して、個々の適性にあった指導をすすめる。
 - ・自立への支援
対象児童の実態を特別支援コーディネータとともに関係機関を含めたケース会議を実施して検討していく。
単に学習の遅れを補うものではないことを確認する。